

コミュニティバス「ふれあいバス」の課題

現 状

- コミュニティバス「ふれあいバス」の利用者は、平成29年度で31,874人であり、平成25年以降微増傾向にあるが、低額な運賃設定と70歳以上の運賃無料化により、財政負担が大きい状況にある。

⇒ P6～P9

- 路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」は、多くの区間において重複して運行している。

⇒ P18～P19

- 路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」は、料金体系が異なるため、目的地までの料金負担に格差が生じている。

⇒ P18～P19

- 町域全体の路線バス利用者はほぼ横ばい傾向にあるが、北部地域を運行する杉生線（杉生系統）では、利用者の減少により減便されており、杉生新田～後川（篠山市）間は廃止が予定されている。

⇒ P15～P16

- 阿古谷地区を運行する西能勢線（阿古谷系統）は、平日のみ2往復に減便されており、バス路線の維持が困難な状況であると見込まれる。

⇒ P16

- 新名神高速道路の供用開始、道の駅いながわ機能拡充プロジェクト、プロロジス猪名川プロジェクト等による新たな拠点整備が進行している。

⇒ P11、P27～P28

- 道の駅いながわ機能拡充プロジェクトの将来構想では、「地域センター型としての道の駅」かつ「ゲートウェイ型としての道の駅」があげられており、町民や来訪者が公共交通利用可能な交通結節機能を有する拠点としての役割が求められる。

⇒ P28

課 題

課題①

- ・ 多様なニーズを把握したコミュニティバス「ふれあいバス」の見直し

課題②

- ・ コミュニティバス「ふれあいバス」と路線バスの維持・活性化に向けた料金体系の見直し

課題③

- ・ 各交通モードの役割を明確化し、まちづくりと統合した公共交通ネットワークの再構築

課題④

- ・ 新しい拠点を交通結節点とした公共交通のあり方